

DOYU

I W A T E

2
Feb.

3
Mar.

2024 Vol.175

同友いわて

合併号

「岩手で未来に夢と希望を持って
生きる事が出来る会社を創りたい」

(株) 盛高商店 代表取締役 工藤 尚氏

よい会社をつくる。よい経営者になる。よい経営環境をつくる。
岩手県中小企業家同友会 | <http://www.iwate.doyu.jp/> |

《シリーズ》 いきいき 活き生き企業訪問記

「岩手で未来に夢と希望を持って 生きる事が出来る会社を創りたい」

(株)盛高商店 代表取締役 工藤 尚氏

盛岡市南大通りに面した盛高書店には、平日にもかかわらず、午前中から沢山の方々が訪れます。幅広いジャンルの古書を中心に、地域の歴史を紐解いた数十年前の町史などの貴重な資料や70年代のアイドル雑誌などが揃い、それぞれの一番の宝物を探しに、年代や性別を問わず、様々なお客様が訪れます。



書店を営む(株)盛高商店代表取締役 工藤尚氏は話します。『リユース品は手放す方にとつては役目が終わったものかもしれないですが、ある方にとって「探し求めたたった一つ」かもしれない。私たちはそんな想いを繋ぎ続ける循環を創り続けたいと思っています。』

地域貢献をして 成功(盛高)しよう！

工藤氏が同社を立ち上げたのは2013年です。長く勤めた会社を退職、読書が好きだったこともあり、古書をはじめリユース品を中心に収集し、店舗やネットを活用して古物商を営む事業を始めました。「岩手が中心となる仕組みのビジネスで、未来に夢と希望を持って生きることが出来る会社をつくりたい」と、

社名を工藤氏の出身地の盛岡と奥様の出身地の陸前高田の一字ずつをとり、また「地域貢献をして成功(盛高)しよう!」という想いを込めて盛高商店と名付け、スタートしました。

しかしその思いとは裏腹に、創業から8年ほどは苦勞する日々でした。買い取りに向いては、寝る間も惜しんで販売に取り組みますが、なかなか希望が見える状況にはほど遠い毎日が続きました。苦しく悶々とした日々を過ごしていました。

「あなたは何業ですか？」

そんなときに出会ったのが同友会でした。「経営を学ぶ真面目な会があるよ」と知合いの経営者から誘われ、例会に参加したのがきっかけでした。毎回例会で体験報告を聞くうちに、何度も話に出てくる「経営指針」という言葉が気になるようになりました。社員も増え始め、様々な悩みも出ていた時期でもありましたので、「経営指針を作成すれば、社員一丸になれる

会社ができるかもしれない」と、わらをもつかむ思いで、5ヶ月にわたる第16期人を生かす経営・経営指針実践塾に飛び込みました。

工藤氏は当時を思い返して話します。『あなたは何業ですか』と聞かれて「リユース業です」と答えると、「それは違う」と言われ、修正すると「思っていないことを書いている」と問いかけられる。自分の中で何が何だかわからなくなりました。でもそれは、業の使命を深く考えていなかったことや、更には自分自身の人生を深く考えていなかったことが原因であることが、後にわかってきたのです。そして最も重要な「何のために経営するのか」の問いの答えが、普段から大切にしてきた。「岩手で未来に夢と希望を持って生きる事が出来る会社を創る」という創業の思いだったことに気づかれます。

社員が主体的に創る店

それから社員との関わりも大きく変化してきました。これまで工藤氏の考えを強く出していた店舗も、社員が責任を持って陳列する商品や展示方法、POPの見せ方など、社員が責任を持って運営する方法に変え、社員の自主性に委ねた会社づくりに転換しま



した。「社員の目の色が変わってきました。自らが考え行動をすることがどれだけ一人ひとりの社員を成長させるか、実感する毎日です」工藤氏は店舗横で目を細めます。

新たな命を吹き込み、活き続ける循環を実現したい

将来はこうして一緒に会社を作り上げた社員と実現したい夢があります。「リペア・リメイクブランド」を立ち上げたいと思っています。例えば古い家具を丁寧に修理して磨き上げ、経年することで生まれる風合いを生かし素敵な商品として再生。「物語」として販売を試みたり、着物をリメイクした靴、バック、服などの商品を生み出すなど、新たな価値の提案を試みます。そして系列店にはない、独自の総合リユースショップを具現化し、岩手で一番リユース品を必要としている人にお届けできる会社を実現。商品に新たな命を吹き込み、リユース品として活き続ける循環を地域に創り上げ、発信し続けていきたいと考えています。

会社概要

株式会社盛高商店

設立：2013年4月2日

社員数：15名

業務内容：リユース業 買取不要になった本、CD・DVD・ゲームソフトなどメディア全般の他、家具・家電・雑貨などリユース品の買取

経営理念

- 一、私たちは、託された想いを求める人につなぎ、商品に新たな命を吹き込み、リユース品として活き続ける循環を創ります
- 一、私たちは、リユースの価値を地域に広め、込めた想いが循環し、リユースが生活に根付いた社会を創ります
- 一、私たちは、誰もが個性を活かし生き生きと活躍出来る環境をつくり、共に学び成長し、物心共に満たされた人生を実現します



22名のゲストで盛大に開催!!
(株)盛高商店 工藤尚(代表取締役)氏は、盛岡支部第1地区会の地区長として地区会の活動も牽引されています。2月に行われました地区会では、工藤氏の細やかな情報発信と一人ひとりにお声を掛け、共鳴した50名の方が参加。うちゲストが22名の方が参加するほど盛り上がった地区会になりました。工藤氏の一人でも「同友会を知って欲しい」という思いと人脈の広さを感じさせられた2月の地区会の内容をご紹介します。

盛岡第1地区会

経営者として大切にしてきたこと

(有)秀吉 代表取締役会長 渡邊 史朗氏

人との出会いとつながりがあつたから今がある

盛岡支部第1地区会が2月8日(木)「戦国焼き鳥 秀吉本陣」で行われました。当日はゲスト22名を含む総勢50名が参加。地区会では、はじめての50名参加者で会場は熱気で溢れかえる状況で始まりしました。「経営者として大切にしてきたこと」をテーマに創業者の有限会社秀吉代表取締役会長 渡邊史朗氏よりお話をいただきました。卒業後、脱サラして「焼き鳥」をはじめた姉のご主人から「手伝いをしてくれないか」と声をかけられたのがきっかけで現在の「秀吉」を創業することになりました。220万円の融資を運転資金に1975年9月4日(申の日)に、盛岡市中の橋通りに16席でのスタートでした。来店時に戦国の開戦時を思わせる「ぼら貝」を吹くことや塩の焼き鳥に特製ダレをつけたキャベツなど博多で修業したものを活かし他店との差別化

を行って来ました。これは49年経った今も、変わらない味を届けています。現在飲食事業の他、食材事業、地域応援事業、ICT事業、不動産事業など多岐にわたり事業を行っています。今までの人生を振り返り渡邊会長は「一人では何もできない。任せることの大事さを感じた。」など自身が病で倒れた経験から気づかされたこともお話しただきました。そして「人との出会いと人とのつながりがあつたから今があります。」と熱く語るその言葉が今回の参加人数にあらわれている地区会でした。その後、渡邊会長を囲んだ懇親会は大いに盛り上がり終了しました。



新たな危機を新たなチャンスへ 今何が必要か？

「私たちがつくる未来に向けて、

中小企業への大きな期待」

拓殖大学 政経学部経済学科教授 山本 尚史 氏

2024新春講演会が1月25日（木）、88名の参加でホテルメトロポリタン盛岡本館にて開催されました。「新たな危機を新たなチャンスへ今何が必要か？」中小企業の魅力を地域で発揮する」をテーマに拓殖大学教授山本尚史氏が基調講演。また第2部では（株）I O S代表取締役中鉢貴省氏（宮城同友会）に

地方都市が直面する人口減少

国土交通省が2014年に発表した「国土のグランドデザイン2050」では、2050年にほとんどの地方都市で人口が大きく減少することが描かれています。一方、人工知能を用いた研究によれば、日本の社会経済が2050年に向かうシナリオとして都市集中型と地方分散型の2つに大別できるそうです。その研究ではこの2つのシナリオの分岐が2025年〜2027年ころに来ると予測していることから、2050年という未来は、どのような政策を重視するリダーを選ぶかという喫緊の選



『どん底』から『なくてはならない会社』になぜなれたのか」をテーマにお話いただきました。特集でお二人のお話をご紹介します。

望ましい未来に向かうためには

同友会の皆さまに希望することとしては、第一に、労使関係を軸とした経営変革をすることであり、賃金アップを通じて地域の人々の所得を高めることに貢献していただきたいです。第二に、中小企業振興基本条例を活かして地域の未来構想を産学公民金の連携で提唱して下さい。条例が制定されればそれで終わりのではありません。条例を生かして、「私たちがだったらどういう地域にしたいのか」を提唱し実践に繋げていただきたいです。そして第三は、地域内経済循環を高めるような情報を地域内にくまなく回し、地域内取引を増やして、可能であれば地元へ投資をしていただきたいと思います。これらが望ましい未来への道となります。

拓殖大学の皆さまに希望することとしては、第一に、労使関係を軸とした経営変革をすることであり、賃金アップを通じて地域の人々の所得を高めることに貢献していただきたいです。第二に、中小企業振興基本条例を活かして地域の未来構想を産学公民金の連携で提唱して下さい。条例が制定されればそれで終わりのではありません。条例を生かして、「私たちがだったらどういう地域にしたいのか」を提唱し実践に繋げていただきたいです。そして第三は、地域内経済循環を高めるような情報を地域内にくまなく回し、地域内取引を増やして、可能であれば地元へ投資をしていただきたいと思います。これらが望ましい未来への道となります。



労働環境の良い企業をつくって承継する

そのためには、同友会の会員企業は若者と女性に選ばれようになつていただきたいです。30代の社員に400万円以上の年収を提示することが目安です。また、皆さまは、人間関係や雰囲気の良い職場にして、社員が安心して力が発揮できる労働環境をつくって下さい。さらに、若者と女性に選ばれる労働環境を自社の文化や社風にして下さい。

企業変革支援プログラムをまず手にとることから

経営変革に向けたガイドが『企業変革支援プログラム』です。経営の健康診断になりますし、社員と一緒に取り組むことで経営のアップグレードにつながります。金融機関と交渉するときに効果的なツールとしても使えます。

『企業変革支援プログラム』については、1ページ目から通して読破しようとするより、まずは手を付けやすいところから取り組み始め、自社が弱いところを順番に進めたりすれば、結果として全部できたということになるでしょう。経営についての数値を把握することで経営変革のポイントが見えたりします。各社の状況に合わせてうまく使ってほしいと思います。

条例づくりは地元の中小企業と一緒

経営変革を進めるのはもちろん経営者ですが、地域ぐるみで経営者を応援する環境を

つくるために必要不可欠なものが中小企業振興基本条例です。この条例は、中小企業の重要性を明言し地域の人々が中小企業の重要性を認識する「理念条例」です。この条例に基づく取組みが、経営者による変革を助ける環境をつくります。

これから条例を制定しようとするときに最も大切なのは、経営者の方々が行政と一緒に条例づくりに取り組むことです。そして、そのときに必要になるのが地域経済と地元企業についての実態調査です。地元にはどういう企業が多く、どんな課題が多いのかを調べる必要があるからです。行政職員と経営者として、

地元企業が抱える課題の情報交換ができて、実態調査から得られるデータを元に政策を組むことができるようにしなければなりません。つまり、条例・実態調査・合議体という三つが一つのセットになります。

ビジネス環境を テラーメイドで構築する

ただし、行政の方々は条例から直に政策をつくるわけではありません。中小企業の振興を図る政策には、条例に書かれている理念を政策として具体化するための実施枠組みが必要なのです。その実施枠組みのひとつが「エコノミックガーデニング」です。

「ガーデニング」という名のごとく、地域経済という庭で中小企業という花がきれいに咲くように工夫して支援する手法です。「進取の精神が旺盛で価値を生み出す中小企業が長生きし繁栄するようなビジネス環境をテラーメイドで構築すること」がエコノミックガーデニングの要諦です。地元の企業のためにそれぞれの地域の長を活かす「地域経済賑耕」をするのがベストです。この点でも、経営者の方々が行政と一緒に取り組んでいただきたいです。

ピンチをチャンスに創業

大学卒業後、東京でオートバイの小売りの全国チェーン店に営業として入社しました。しかし長時間労働のブラック企業で、体調を崩し退職し、地元に戻り旅行サイトの営業代理店をしていた父親の仕事を手伝いました。しかし、旅行サイトの運営会社が大手企業に買収され、会社がなくなってしまう。大変ショックでしたが、大手大企業がインターネットの旅

「どん底」から「なくてはならない会社」になぜなれたのか

(株)IOS 代表取締役 中鉢貴省 氏(宮城同友会)

行業に注力するという情報からこれをチャンスとして2005年に営業代理店として創業しました。

現在は主に、宿泊施設のプランディングやインバウンドのためのホテルや旅館の外国人向けのホームページ制作やITに関する事業をサポートしています。岩手県内のホテルや旅館の方々にも大変お世話になっていきます。

計画もなくなただ 走り続ける日々の経営

20代半ばで創業したので、経営計画を立てたり、銀行に融資を申し込むという発想はなく、預金も底をつき、片道切符しか持たずに、折り畳み自転車と高速バスに積んで営業に走りまわりました。消費者金融からも借りた時期もありました。

2〜3年するとお客様も増え、売り上げも安定してきました。

したが、メーカーからの入金しかないことに気が付きます。独自の商品もなく、付加価値も差別化できる商品もなく、顧客の言いなりでした。その頃、社員は遅くまで残業が続く毎日。全く楽しくありませんでした。創業して5年が経ち、ようやく気がつきました。

何とか新しいことに挑戦したいと、ビジネスホテルを購入しました。しかしこれも思いつきだったため、また借金が増えました。社員からの不満も多く、創業から9年が経過する頃には、「いつ辞めてもいい」という投げやりな状況になっていました。

経営指針を創る会での学び

そんななか、2013年宮城同友会の「経営指針を創る





「会」を受講しました。受講中、先輩経営者から叱咤激励され、助言をいただきながら得た確信がありました。その鍵は経営者の覚悟と経営理念。そして「何のために」と事業定義「誰に・何を・どのように」の明確化であったこと。更に継続して社員と共に経営指針に忠実に取り組み、それを愚直に継続し続ける事でした。

愚直に仲間と学びあい、実践を重ね続けるしかない

そのなかで私が最も厳しく向き合ったのは現状分析でした。わが社のサービス、商品

は業界、地域でどれぐらいのシェアなのか。それがどのくらい市場規模まで伸ばせるのか。そして、その中で生かし切れる自社の強み、持ち味は何か。見えないものをすべて見える化していききました。

重要なのは経営者の姿勢でした。決して一人で進まず、経営指針を全社で共有しビジョンを掲げ、時間がかかっても社員が納得するまで待ち続ける姿勢が、本当に苦しかったコロナ禍を切り抜ける大きな力になりました。「今日の社長の言葉よりも経営指針を最も重要視する」。簡単なようで、最も難しいこうした表裏のない社風づくりが何よりも大切だと思います。

同友会の仲間がいたから今がある

同友会運動のメリットとしては、「あり方や、労使見解などの経営の本質を学べることでしよう」と言われますが、私は同友会の様々な活動で学べる手法や方法、テクニクも経営に本当に参考になると思います。学んだことをきち

んと実践すれば、必ず利益を出せると思いますし、例会や実践報告で定期的に定点観測や振り返りができます。

そして、企業連携やパートナー企業を探すにも本当に役に立っています。事務局に電話を一本すれば、紹介先の人ひとりの経営者の経営理念やどんな考えを持っているか、その人柄まで丁寧に教えてくれますし、企業の状況までもよく知っています。これは他の組織ではありえません。

委員会活動においても経営労働、社員教育など色々な委員会に所属して学んでいます。支部では同じ支部の仲間と情報を共有して、補助金や国の政策についてなどの情報をつかみ、特に今回のコロナでは本当に助けられました。

選ばれて残っていく企業になりたい

実は借金がかなりあった時に「もう会社を辞めてもいいかな」と思いました。しかし、今は「選ばれて残っていく企業になりたい」と180度マインドが変わりました。

ただし、事業存続は自分だけで決めてはいけないと思います。私たちは中小企業家のプロフェッショナルです。経営者の責任として、コロナでも天災が来ても、どんな環境でも維持発展させていかなければなりません。そして維持は当たり前で、存続していかなければならないません。

根本的な社会問題や地域の細やかな課題が本当に沢山あります。この解決と会社の利益が事業を通してイコールになる。これを追い求めている会社だけが、周りから永続的に残っていると許可してもらえる、許してもらええる会社なのではないかと思っています。

これからも、同じ同友会の仲間として20年、30年も経営談義をしながら学び合い、数多くの仲間と切磋琢磨して成長していきたいと思っています。

2024年7月、今年の中同協の全国総会が宮城で開催されます。私はその実行委員長として担わせていただくことになりました。皆様と仙台でお会いできますこと、心より願っております。

会社概要

株式会社 IOS (アイオーエス)

設立：2005年3月

資本金：300万円

社員数：13名

事業内容：宿泊施設向け各種システム販売・開発・Web制作事業・コンサルティング事業・デザイン一般 ホテル経営

経営理念

- 一 私たちは、魅力を創り、想いを届け、人に元気を地域に活力をもたらします。
- 一 私たちは、郷土の資源を輝かせ、豊かな社会の永続的繁栄を実現します。
- 一 私たちは、出会い、学び、磨き合い、生き活きとした笑顔で夢と希望を共奏します。

支部・部会通信

青年部

新しいスタイルで楽しく学ぶ パイセントーク例会！

2月2日（金）青年部パイセントーク例会が、川上塗装工業（株）3F「ソノツツキ」で開催されました。今回の例会は「楽しい」をテーマに、参加される方々はカジュアルでラフなスタイルと、アウトドアアチエアを各自持参という方法で開催しました。報告者は川上塗装工業（株）代表取締役の川上秀郎氏より「楽しい会社づくり」というテーマでご報告いただきました。



下請けからの脱却

川上氏は2005年、26歳で創業します。創業当時は盛岡市内のアパートの1室を事務所とし、仕事の大半は下請けの仕事が多く、毎日必死で仕事をしていました。ある同業の先輩経営者から「個人事業であつても、ちゃんと経営を学んだ方が将来的にいいよ」というアドバイスから同友会に入会。2009年に第5期経営指針を創る会を、妻（現在の専務取締役）と2名で受講します。その時の経営理念の1つは「私たちは義理と人情を男気で日本一の会社になります」という理念でした。

経営者の決意と本気が 大きく会社を変える

そんな中、指針を受講中に、大事にしていた社員が事故で亡くなるという事が起きました。悲しみの中で川上氏は「会

社をしっかりさせたい。何かなんでも社員を守っていい」と決意しました。そこから、社員全員が決算書を見て現状認識できるように学び、コツコツと続けていくことで、会社がどんどん変わっていききました。塗装では新しく「塗料で地球を守る」を掲げGAINA（ガイナ）塗料を（JAXAが共同開発）東北で特約店として始めました。これはSDGsの「9・産業と技術革新の基盤をつくろう」と「11・住み続けられるまちづくりを」の目標達成に貢献できる商品です。

資源循環を通して 雇用につなげる

また「リンクアップウエス」活動として綿のTシャツを1枚作るために大量の水が使用され、その衣料の再利用がわずかで、約74%が焼却・埋め立て処分されている現実を知りました。不要な布をご寄付いただき、福祉作業所へ裁断の仕事を依頼し、できたウエスを日々の仕事で使用するなど、資源循環と障がい者の雇

用創出につながる活動もしています。

「命」をかけて「愛」で守る

「私は、最終的に未来の世代の子どもたちのために「命」をかけて「愛」を持って守っていかねければならないと思っています。これからも理念を大切に地域・地球と共生し、事業を通じて社会課題の解決に取り組み、持続可能な循環型社会の実現に貢献できるように頑張っていきたいと思っています。」と参加者一人、ひとりに熱く語る川上氏の報告でした。



県南支部

「県南地域に社員が輝く場をつくる！」
愚直さは必ず花開く
見えた地域の未来

社員と一緒に参加し、 共に学び語り合う例会

県南支部2月例会が2月20日（火）一関のなのはなプラザで開催されました。県南支部では一年を通して、経営課題別のテーマを設けた、報告者との打ち合わせを丁寧に重ねた例会を開催してきました。今回は昨年報告に立っていた（有）かさい農産の社員、生産部主任の加藤茉莉子氏に、報告からこの一年取り組んでどんな変化があったのか報告いただく「社員と共に参加し学び語り合う例会」を支部幹事を中心に時間にかけて準備を続けてきました。当日は2名のゲスト、4人の各社社員を含む16名の参加で、深く学び合った例会となりました。

会社が大好きだから こそ「要望書」

加藤氏は緊張しながらも、昨年に続き言葉を選びながら



はつきりとした口調で話し始めました。「2年間で10名も退職した社員は強い危機感を持ちました。そこで時間外に有志が集まり、自分たち社員からの思いを込めた「要望書」を会長、社長にぶつけました。でもそのときの想いは『会社が好きで、楽しくやりがいいからこその要望書だった』と振り返ります。『それから一年が経過し、『今まで通りの働き方で良いのか?』と自分たち自身も問いかけ続けました。そしてつと会社の数字を知りたい。このままでは会社がなくなってしまう。どうすれば財務を改

愚直さは必ず花開く ～見た県南支部の未来

会場からの全体質問では、具体的なアドバイスが飛び交いました。「品目ごとに分析することで、どうすれば付加価値を上げられるかが見えてくるのでは」「農業でも原価率を丁寧に出すことで、製造業等と同じように取るべき方策が見えてくるのではないか」などの意見や「ここまで話す社員がいるのは、経営者冥利に尽きる。本気で会社のことを思う社員の思いに経営者が責任を持って向き合うしかない」など、予定の時間を遙かに超えて意見交換が続きました。

続くグループ討論では、それぞれのグループに各社の社員が入り、社長と社員が胸襟を開いて学び合う、熱い語り合い例会が続きました。派手さはなくとも愚直に課題に向き合い続ける県南支部の取り組み。いよいよ地域に花開く日は間もないと感じた2月例会となりました。

岩手同友会で、学生地域社会を提案 岩手大学中島ゼミ／環境マネジメント演習・発表会

2月7日（水曜日）、岩手大学の中島清隆先生のゼミ、環境マネジメント演習の発表会が岩手同友会の事務局で行われました。当日は田村満代表理事、村松幸雄相談役に参加いただき、2時間に渡る学生の発表と企業経営者からのアドバイス、コメントをもとに意見交換が行われました。

地域内エネルギーシフトの循環を具現化へ

これまで岩手同友会では、岩手大学人文社会学部の中島清隆准教授と毎年「地域中小企業の環境経営」をテーマの主軸に据えて、環境マネジメント演習ゼミを開催してきました。東日本大震災前は、「中小企業における環境報告書の作成支援」を行ってきました。震災を経て岩手同友会がエネルギーシフト（ヴェンデ）に取り組み始めると、中島准教授が岩手同友会のドイツ・オーストリア・スイス欧州視察に5度にわたり参加いただき、その後企業のエネルギーシフトの実践に学生を同行し

経営者に意見を提起するなど、10年を超える取り組みを重ねて来ました。3年前からは学生が実際に地域内のエネルギーシフトを具現化する「学生模倣会社」を実際の立ち上げをイメージして計画を作成する取り組みにまで発展昇華させることができ、今回その完成発表会となりました。

この企業を本気で続ける気はないの?

4人の学生は緊張しながらも自分たちの会社名、明確な経営理念を掲げ、この企業ではどんなサービスをを行うの



か、またそれは何のため誰のためなのか、まで熱く説明しました。発表を聴いた田村氏は、「自分たちの描く理念に基づいて商品やサービスを提案している姿に感動した。一つだけ質問したいが『地域のお客様のニーズに合わせて』とあったが、ニーズはつくるものではないか。少なくとも中小企業ではそういう意識が必要だと思う」と率直に学生にぶつけました。学生は困りながらも、「まだ私たちにはそれが足りない。ないならつくる、という意識はなかった。大きな気づきだ」などと応対。これまで平泉ドライビングスクールの訪問し断熱改修の考え方もじっくりと学んできた学生達だからこそ、キャッチボールができるほど成長した姿に、田村氏は感服しきりでした。また村松氏からは、「これだけの企業イメージができるのなら、このままやめてしまいうのはもったいない。本気で続ける気はないの?」との問いかけもあり、学生が「どうすれば続けられるのか、考えてみたい」と応じるなど、学生と経営者が一緒になって地域でのエネルギーヴェンデに取り組み意義を深く感じた時間となりました。

新 会 員 紹 介

今回もたくさん仲間が増えました！

支部地区	盛岡支部 第3地区
氏 名	菊地 健二
企 業 名	(株)ライト・ア・ライト
役 職 名	代表取締役
住 所	盛岡市津志田南 2-13-38
T E L	019-681-7013
F A X	019-681-7014
事業概要	広告業



支部地区	盛岡支部 第1地区
氏 名	三井 康平
企 業 名	(株)サステナ
役 職 名	代表取締役
住 所	滝沢市巢子 152-409 滝沢市 IPU 第2イノ ベーションセンター
T E L	03-6316-3014
F A X	019-613-7600
事業概要	IT コンサルティング、システムインテグ レーションを行う電気通信事業、幅広い ジャンルの映像制作



支部地区	県北支部 岩手山麓地区
氏 名	冬澤 誠純
企 業 名	(株)さくら エンタープライズ
役 職 名	代表取締役
住 所	滝沢市下鵜飼 54-2
T E L	019-601-5576
F A X	019-601-5579
事業概要	建設業（上・下水道工事）・土木工事



支部地区	県央支部 紫波矢巾地区
氏 名	富岡 友佑
企 業 名	(株)よんりん舎
役 職 名	部長
住 所	紫波郡紫波町日詰 字郡山駅 57-3
T E L	019-671-1755
F A X	019-671-1756
事業概要	事務受託 企画営業販売



支部地区	県南支部
氏 名	志村 智之
企 業 名	(株)シムラ
役 職 名	代表取締役
住 所	奥州市胆沢小山 字東油知 23
T E L	0197-47-1618
F A X	0197-47-1619
事業概要	土質試験、地盤調査、 コンクリート構造物調査



支部地区	盛岡支部 第2地区
氏 名	阿部 憲
企 業 名	(有)盛岡自動車部品
役 職 名	代表取締役
住 所	盛岡市月が丘 1-28-20
T E L	019-641-1933
F A X	019-641-3873
事業概要	自動車部品の卸売業



岩手同友会第34回定時総会のお知らせ

日 時 2024年5月28日(火)
 総 会 13時30分～15時00分
 記念講演 15時00分～18時50分
 懇親会 19時00分～20時30分
 会 場 アートホテル盛岡
 (盛岡市大通3-3-18 TEL 019-625-2131)
 参 加 費 総会/無料 記念講演/1,000円 懇親会/8,000円

記念講演

テ マ 「三位一体経営の実践で新時代を切り拓く」(仮)
 報 告 者 有限会社ウメイチ 代表取締役 梅田 益生 氏
 (岐阜同友会 中小企業家同友会全国協議会青年部連絡会代表)

企業概要

設 立 1988年3月 資本金 500万円 社員数60名(グループ72名)
 事業内容 貸衣装、各種記念撮影、撮影に伴う美容・着付
 U R L <https://plum-s.com>



素心知困

「会社が好きで、ずっと続いてほしいからこそ私は言う」県南支部例会では、社員が報告者に立ち、各社の社員がグループに入り、自分たちの想いを吐露しました。▼「将来の会社のビジョンを見せてほしい。」めざす未来が見えなければ、努力する方向がわからないから。「財務を公開してほしい。」何をどう改善すればいいかわからないから。▼グループ討論ではある幹部社員が話します。「30名を超える私の部下は年上ばかり。でもその部下に弱音やストレスをぶつけたことは一度もない。私も経営者の一人。部下が安心して働ける場所をつくる責任があると思い毎日取り組んでいる。」▼あるベテラン社長は「もう一生懸命やらなくともいいかな、と思う毎日だった。今日久々に来てみたら、社員の言葉が刺さってくる。社員と本気で今後について話そうと思う。」▼世代、年代、立場を越えて一人の人間として学び合う場づくり。同友会運動でしかできないことがあります。

■本紙掲載の例会や諸事業には、所属支部に関係なくどこにでも参加できます。ご連絡下さい。■同友会ホームページをご利用下さい。www.iwate-doyu.jp ■例会や役員会などのカレンダーと事業案内を随時更新しています。■本紙掲載事業への出欠返信は、同封のファックス返信用紙またはe.duyuをご利用下さい。

ゆたかな幸せのために、より良い環境創りで真の循環型社会を目指します。

浄化槽保守点検 → 浄化槽汚泥回収運搬 → エネルギー発電 → CO2 → BDFの製造・販売 → 浄化槽汚泥回収運搬

紫波環境株式会社

岩手県紫波郡紫波町南日詰字小路口70-1
TEL:019-672-2656 FAX:019-601-2686
http://shiwakankyo.com/

Southern Iwate DSG
サザン岩手ドライビングスクールグループ
Southern Iwate Driving School Group

陸前高田ドライビングスクール 三陸技能講習センター
RIKUZENTAKATA DRIVING SCHOOL Sanriku skill training center

平泉ドライビングスクール 遠野ドライビングスクール
HIRAIZUMI DRIVING SCHOOL TOHNO DRIVING SCHOOL

携帯サイトはこちら
http://www.si-dsg.com/mobile

人と自然にやさしい環境を創り地域型企業として貢献します。

岩手日化サービス株式会社
〒020-0402 盛岡市奥川 22-56
TEL 019-696-5611 FAX 696-5614

節電は経費削減につながります！

オフィスの照明を見直し、経費削減を実現しませんか？
お客様のニーズに合わせたLEDソリューションをご提案します。

長寿命 消費電力カット CO2削減 発熱が少ない

現場調査から取付工事まで、すべて平金商店へお任せ下さい！
LEDに入れ替えた場合のコストシミュレーションも可能です。ぜひお気軽にご相談ください。

株式会社 **平金商店** TEL:019-624-2121

物を大切に！環境にやさしく！使いたい人から使いたい人へ
総合リユースショップ **Doki-Doki 2nd STREET**

(株)トータル・リユース
代表取締役社長 **伊瀬 幸郎**
ise yukiyo

本社 〒026-0041 岩手県釜石市上中島町2-2-33
TEL:0193-21-2126 FAX:0193-21-2127
携帯 090-8780-3296
E-mail: trise@arion.ocn.ne.jp

オリジナルラベル ワインを作成します

周年記念、御中元、お歳暮、ノベルティ等

自園自産ワイン **紫波** 社名ロゴ 写真 OK 包装、のし無料 12本以上 作成料無料

お申し込み・お問い合わせ
Tel. 019-676-5301
自園自産ワイン **(株)紫波フルーツパーク**
〒028-3535 岩手県紫波郡紫波町遠山字松原1-11

「企業変革支援プログラム ver2」

自社の立ち位置を明確にして社員とともに目指す企業像

「企業変革支援プログラムステップ1」「企業変革支援プログラムステップ2」を1冊にまとめ、全面改訂

A4判、80ページ。
定価2,200円
(本体価格2,000円+税)
2022年10月発行

めだか

有限会社いわてにつかコミュニティ企画
(事業内容) デイサービス / 生活介護 / 訪問介護 / 住宅型有料老人ホーム
児童デイサービス / 相談支援事業所 / 訪問看護 / 就労継続支援B型

DOYU
I W A T E
同友いわて
2024
Vol.175

発行／2024年3月1日発行
岩手県中小企業家同友会
広報委員会

〒020-0878 岩手県盛岡市肴町4-15 カガヤ肴町ビル3F
TEL 019-626-4477 FAX 019-626-1644
Mail: info@iwate-doyu.jp